

漁業・農業関係者らと交流し支持を表明 エマニユエル米国大使



ラーム・エマニユエル駐日アメリカ合衆国大使は8月31日、相馬双葉漁業協同組合や相馬復興市民市場「浜の駅松川浦」などの市内施設を訪れ、漁業・農業関係者らと交流しました。エマニユエル大使は、相馬双葉漁業協同組合を訪れ、漁業者から東日本大震災以降の漁業の現状などの説明を受けた後、立谷市長とともに伝承鎮魂祈念館の慰霊碑に献花しました。



れたヒラメやスズキなどの定食を食べた後、「浜の駅松川浦」とJAふくしま未来「ふれあい旬のひろば」を訪れて農作物を試食したほか、各所で市産の農水産物などを購入しました。エマニユエル大使は、「我々は、日本が科学的な厳格さや透明性を持って素晴らしい取り組みをしていることに信頼感を持っています。同盟国・友好国として日本を支援し続けていきます」と述べました。

処理水放出後の初水揚げ 相馬双葉漁協



相馬双葉漁業協同組合による底引き船の水揚げは9月1日、原釜漁港で行われました。東京電力福島第一原子力発電所からのALPS処理水放出後初の底引き網漁で、20隻の底引き船が福島県沖の漁場で漁を行い、タコやイカのほか、アンコウやメヒカリなどが水揚げされました。水揚げされた魚介類は、すぐに競りにかけられ、県内外に流通されます。※同発電所からのALPS処理水は、8月24日に海洋放出が開始されました。

大勢の買い物客でにぎわう

伝統の大瓜市



400年の歴史を持ち、市のふるさと行事である大瓜市が8月12日、宇多川町で開催されました。

当行事は宇多川町商店街振興組合が主催し、お盆の時期に用いる品物や供物などを買いたいそろえる盆市を起源とする催しとして開催。

歩行者天国となった通りには、スイカやお盆にお供える花のほか、かき氷や金魚すくいなどの露店が並び、大勢の来場客でにぎわいました。

地域を支える 民生委員委嘱状交付

民生委員・児童委員の委嘱状交付式は8月16日、市役所で行われ、新しく委嘱された中村西部地区第6行政区の齋藤正一さんが訪れました。

立谷市長は「お引き受けいただきありがとうございます。互いを思いやる気持ちを大切に、地域で力を合わせて取り組んで欲しいと思います。よろしく願います」とあいさつしました。



寄付・寄贈ありがとう

▽あぶくま信用金庫



あぶくま信用金庫による軟骨伝導イヤホンなどの寄贈式は8月9日、市役所で行われました。

寄贈は、同法人が地域密着総合連携協定を締結している自治体を対象に、住民サービス向上を目的に実施。

塩見直哉相馬支店長は、「住民に対する窓口サービス向上のために役立ててほしい」と述べ、立谷市長にイヤホンなどを手渡しました。

寄贈されたイヤホンなどは、市民課総合窓口に配置されます。

▽蔵王リース

蔵王リース株式会社の平間征太郎会長と平間宏樹代表取締役は8月22日、市役所を訪れ、立谷市長に寄付金を手渡しました。

同社は、地域貢献の一環として、東日本大震災以前より継続的に本市への支援を行っています。

寄付金を受け取った立谷市長は「ありがとうございます。被災高齢者の生活支援のために有効に活用させていただきます」と感謝の言葉を述べました。



災害に強い橋の完成を祝う中橋



中橋の開通に伴う神楽舞披露は8月11日、中村地区で行われ、関係者約30人が参加しました。

同橋は、令和元年東日本台風で被災したため、道幅が従来より1メートル広い5メートル、橋脚が従来より7基少ない2基の橋に架け替え。

当日は、地区の神楽保存会である中野大蛇会（なかのおろちかい）が、橋を渡りながら笛や太鼓の音に合わせた神楽舞などを披露しました。

中橋は、同会による神楽舞披露の後、同日開通しました。

スポーツ大会出場報告

▽バレーボール

スポーツ大会出場報告は8月18日、市役所で行われ、全国大会に出場する磯部中学校の生徒ら11人が立谷市長に報告しました。

選手らは8月に開催された第53回東北中学校バレーボール大会で準優勝し、8月20日から愛媛県松山市で開催の全国大会に出場。

報告を受けた立谷市長は選手らを激励しました。



▽ビーチバレーボール



スポーツ大会出場報告は8月31日、市役所で行われ、全国大会に出場する選手4人が訪れました。

選手らは、6月4日に開催された県大会で優勝し、9月16日から鹿児島県で開催の燃ゆる感動かごしま国体に出場。

報告を受けた立谷市長は選手らを激励しました。

小・中学校防災・防犯訓練、防災給食

▽中村第二中学校

中村第二中学校の防犯避難訓練は8月25日、同校で全校生徒167人を対象に行われました。放課後に不審者が侵入したケースを想定し、生徒らは教師の指示のもと教室や会議室などに避難した後に施錠し、安全を確保しました。

訓練後の事後指導式で、佐藤武同学校長が「災害や事件はいつ起こるか分かりませんが、自分ができる最善の行動をとることが重要です」と説明し、生徒らは同訓練を通して防犯意識を高めていました。



▽中村第一中学校



9月1日の防災の日に向けた防災授業は8月30日、中村第一中学校で1年生の生徒126人を対象に行われました。

当日は、市教育委員会職員や栄養教諭らが講師を務め、令和3・4年福島県沖地震などの被害を振り返り、災害時の「自助・共助・公助」や備えの重要性が説明されたほか、非常食としてサバ缶やアルファ米などが紹介されました。生徒らは、授業を熱心に聞き、災害時の備えや助け合いの重要性を学習していました。

▽中村第二小学校

中村第二小学校の防火避難訓練は9月1日、同校で全校児童389人を対象に行われました。

訓練は給食室からの火災を想定して行われ、児童らは火災発生の校内放送が流れた後、教師の指示に従って一斉に校庭に避難しました。

続いて、実際の消火活動で使用する消防ホースによる放水訓練や消火器訓練が行われ、代表児童が消防団員に支えられながら放水などに挑戦し、消防団活動を体験しました。



▽八幡小学校



防災の日に合わせて防災給食は9月1日、市内の小・中学校の児童・生徒を対象に実施されました。

給食は、市防災備蓄倉庫の備蓄品を含めた献立で作られ、八幡小学校では、児童らが水を入れるだけでご飯ができるアルファ米やヒートレススラリーなどを使った給食をおいしそうに食べていました。

自分たちで命を守る 山岸自主防災会防災訓練

山岸自主防災会の防災訓練は8月27日、山岸公会堂で実施され、山上山岸地区住民20人が参加しました。

当日は、県危機管理部危機管理課の職員を講師に迎え、「マイ避難シート」を活用した避難行動を事前に考える講習会が行われたほか、相馬消防署の署員を講師に迎え、水消火器を用いる初期消火訓練が行われました。

参加した住民らは、ハザードマップの自宅位置を確認したり、自分の命を守るため避難行動を考えていました。



遺族の負担軽減のため

おくやみコーナー

市は9月1日、市役所1階御仕法通りに「おくやみコーナー」を設置しました。

同コーナーは、遺族の負担軽減を目的に、市役所での必要な手続きをワンストップで進めるために設置。

当日は、訪れた遺族が担当職員から、落ち着いた環境の中で手続きの説明を受けていました。



工場立地に関する基本協定書締結

ユニマテック株式会社

特殊合成ゴムの研究・開

発・生産を行う化学メーカーのユニマテック株式会社と市の工場立地に関する基本協定の調印式は9月4日、市役所で行われました。

調印式には、立谷市長、菊地洋昭代表取締役社長執行役員ら関係者20人が出席。

立谷市長と菊地社長が署名を行い協定書を取り交わし、立谷市長が「工場立地に当たり、全面的に支援し、共に力を合わせて発展していきたい」と述べました。



市内企業による キャリア教育

日立木小学校

日立木小学校のキャリア教育見学は9月6日、そうまIHIグリーンエネルギーセンター（SIGC）で行われ、同校6年生の児童12人が出席しました。

当日は、株式会社IHIの社員が講師を務め、同社の歩みや再生エネルギーの地産地消の取り組みなどの説明に続いて、施設内の見学が行われました。

児童らは、SIGCで行われているメタンの活用などの説明を聞いて、地球温暖化を防ぐ同社の取り組みに理解を深めていました。



消防団の誇りと郷土愛を高める

県消防協会相馬支部幹部大会

第50回県消防協会相馬支部幹部大会は8月27日、総合福祉センターで開催され、相馬地方の消防職幹部団員ら約200人が参加しました。

当日は、消防団活動の中で殉職した団員の御霊に対する黙とうや表彰披露などが行われたほか、立谷市長を講師として「放射能の基礎知識と相馬市の対応」と題した講演が行われました。



相馬産のナシを召し上げ

JAふくしま未来

JAふくしま未来によるナシの贈呈は9月4日、市役所で行われ、濱田賢次代表理事専務ら4人が訪れました。

同組合による贈呈は、本市での農業振興や販路拡大を目的に、毎年行われています。

濱田専務は「今年も良質で糖度の高い美味しいナシができました。ぜひ多くの方に味わっていただきたい」と述べ、阿部勝弘副市長に取れたてのナシを贈呈しました。

